

青い森鉄道利活用アクション事業 業務完了報告書

【業務名】

「モール温泉」私だけの1日 by 青い森鉄道＜東北町編＞

～まちを知り みちを知る～

平成 22 年 1 月

特定非営利活動法人アルキメデス

目 次

1	はじめに	2 P
1-1	事業趣旨	
1-2	事業内容	
2	取組の企画	3 P
2-1	実施日及び場所	
2-2	地域資源発掘及び体験観光ルートの開発に至るまでの検討状況	
3	取組の実施状況	4 P
3-1	青い森鉄道沿線の地域資源の発掘	
3-2	体験型ルートの企画	
4	取組の検証	6 P
4-1	観光ルート事業の実施結果	
a.	観光ルートめぐり	
b.	事前アンケート	
c.	ミニ・ワークショップ	
4-2	観光体験ルート事業の実施効果	
4-3	実施結果を総括した反省点・改善点など	
a.	反省点	
b.	改善点	
5	取組を踏まえた展開	20 P
5-1	体験観光ルートの開発状況	
5-2	今後の展開方針	
6	終わりに	22 P
7	その他 案内チラシ・広報など	23 P

1 はじめに

私たち NPO 法人アルキメデスは、青森県上北郡東北町にある「みどりの大地とロマンの森公園」にある茅葺き家屋「まなか」を拠点とした、まちづくりと環境保全を主な活動とした団体です。

その活動エリアは、上十三地域を対象とした広域的な連携活動と地元東北町での協働による活動に分けられます。地域づくり、まちづくり、そして環境保全活動に分けられます。

その活動内容は、広域的連携活動として上北地域県民局が進めている VIEW 上北推進事業における七戸町新幹線七戸十和田駅から東北町・三沢市・六ヶ所へ至る新たな上北地域の観光ルートの開発とそのルートの「日本風景街道」登録を目指したパートナーシップの構築による地域づくり活動の推進、東北町にあっては茅葺き家屋「まなか」を拠点として、5月のスキー場ゲレンデをスイセンで埋め尽くそうという企画の「スイセンを植えよう会」をスタートに6月はみどりの大地とロマンの森公園および東北町乙供地区を流れる赤川での「清掃活動」7月は小川原湖湖水祭りでの「手づくりいかだレース」、8月は赤川での「灯籠流し」、9月は「日の本中央たいまつ祭り」、11月は赤川の「河川の現況踏査」などを協働により実施しているほか、年に2~3度企画提案による事業を実施しています。

1-1 事業趣旨

青い森鉄道利活用ビジョンのアクションプランの実践に向けた企画及び取組を進める事業の一環として、乙供駅を起点とする地域性を活かした体験ツアーを実施するほか、青い森鉄道線沿線の地域資源の発掘を行うことで、青い森鉄道線への誘客を図り、また、その実施過程を通じて、将来的な観光ビジネスに繋げるための住民、NPO、企業、行政等連携体制を構築し、地域におけるマイ・レール意識の醸成を図ることを目的とする。

1-2 事業内容

昨年度の実施結果を踏まえ、以下 a~c に留意した上で、下記 i.~iii. を実施し、東北町（乙供駅）における鉄道を利用した体験型観光ルートを開発する。

実施内容:

- i. 青い森鉄道線沿線の地域資源の発掘
- ii. 体験型観光ルートの企画
- iii. 体験型観光ルートの実施・検証

留意点：

a. 鉄道の利用

体験型観光ルートは、電車を利用して参加することを条件とし、鉄道の利用を促進するものであること。

b. 温泉資源の活用

地域資源として温泉を活用し、地域の活性化に資するものとする。

c. 沿線住民参加型の地域資源発掘でマイ・レール意識の醸成

青い森鉄道線（目時～青森間）の地域資源発掘は、公募などによる沿線住民参加型で行い、マイ・レール意識の醸成を図るものとする。

2 取組の企画

2-1 実施日及び場所

実施日：平成 21 年 11 月 08 日（日） 10:00～15:30

場 所：東北町乙供駅集合～沿線史跡など

2-2 地域資源発掘及び体験観光ルートの開発に至るまでの検討状況

昨年度から引き続き、青い森鉄道利活用ビジョンのアクションプランの実践に向けた企画及び取組を進める事業の一環として、乙供駅を旅の起点として利用した観光ルートの開発を行った。

今回のルート開発当初では、昨年度報告書「5 事業の検証を踏まえた展開」に挙げられた「ファミリー・サイズのおもしろ科楽コース」と「たいまつ祭り・温泉セット・コース」のアイデアをもとに、鉄道・温泉・食・おもしろ科学を組み合わせ、東北町「たいまつ祭り」への参加も組み込んで、普段は「見に行く」ことしかない沿線のイベントに地域住民とともに「住民の目線から」参加してもらうことにより地域への愛着をよりもたせ、活性化につなげていくという企画が提案された。然しながら、地域側の観光客受け入れ態勢が未だ整っておらず、「たいまつ祭り」当日に「ただの見物ではない外部からの祭り参加者」への「おもてなし」を提供できる施設や組織が充分でなく、今回は観光地としての将来の本地域への問題提起という形にとどまった。「沿線の団体・事業者との連携」がここにあるような観光ルートを実践していく上での今後の課題である。

上記のことから、今回のルート開発では沿線イベント参加型ではなく、同 5 に挙げた「スロー・ライフ&ホット・スパ ミドルエイジ コース」に基づき、今話題のヘルス・ツーリズムのアイデアを観光要素に取り入れる形で「モール温泉」という「癒し」を前面に押し出し、現在、上北地域県民局がすすめている VIEW 上北推進事業の日本風景街道登録に向けてつくり上げた地域に眠る史跡・歴史・絶景ポイント・郷土食などを組み合わせた「奥州街道と縄文のみち」ルートを参加者へいち早く紹介し、モール温泉と「奥州街道と縄文のみち」の企画をした。

特に今回の企画では、ツアーで配布された入浴チケットを利用して、帰宅の際に適度に疲れた状態でスケジュールにとらわれることなく自由にモール温泉に入り、実際の「癒し感」を体験してもらうことができるように温泉入浴をツアー時間外に取り入れた。これにより、ツアー自体のスケジュールも入浴に時間を取られることなく、温泉以外の地域資源へ重点をおけられるようになった。この体験ルートの商品化する場合においても、観光して各地を巡った後に温泉に一泊して癒しを体験するという設定であるため、ツアー後の温泉は実際の商品ルートに近いものと言える。

さらにこの企画では、参加者が観光地として青い森鉄道線沿線についてより深く考察できるように、当日のイベントに参加する前に、あらかじめ「青い森鉄道沿線 私の一押し ツアー・ルート」や「青い森鉄道沿線 私の絶景ポイント」として観光ルートや地域資源について考えた上で応募する形とした。（参照：参加募集チラシ）地域の観光資源とはどんなものか、他地域の人々に地元を紹介したいときに何が「面白く・楽しく・魅力的である」のか、参加者自らが知らず知らずのうちに能動的に考えながら楽しく学べるように工夫した。これにより地域を愛する「くにほめ」の精神が育まれて鉄道沿線地域住民が元気になり、鉄道沿線と鉄道に対する愛着が高まってマイ・レール意識が醸成され、地域が底から盛り上がり活性化する原動力の一環となり、それがさらに青い森鉄道の利用へと繋がっていくと考え、今回の体験型観光ルートを開発した。

3 取組の実施状況

3-1 青い森鉄道沿線の地域資源の発掘

青い森鉄道沿線には温泉が数多く点在し、特に東北町には、かつてドイツと北海道の二ヶ所にしか存在しないとされた「モール温泉」という亜炭層を通過することで黒い湯として湧出する温泉があり、ヘルス・ツーリズム・ブームの昨今、健康に良いということで話題となっている。今回の企画では、その話題性を活かし、モール温泉で沿線住民の注意を喚起し、地域にある温泉と様々な史跡や景色などを結び付けて観光資産という角度からそれらを見てもらい、観光地としての地域資源とは何かを一緒に探ってもらおう。

参加者には事前に「青い森鉄道沿線 私の一押し ツアー・ルート」と「青い森鉄道沿線 私の絶景ポイント」として、新たな地域の見所を紹介してもらい、予め観光という切り口から沿線地域を考えた上で当日に臨む形をとる。これにより、鉄道を利用して現地に向かう過程から既に「観光を考える視点でものを見る」ことを自然に始められ、バスにて試作ルートを巡る時点においても、観光客の立場だけではなく「もてなす側の視点」からも地域を見て観光資源を探るきっかけを与えることができる。さらに、「先ず自分が地域を知ってそれを人に知らせる意識を高める」ことにより、自然なかたちでの「観光ガイドの育成」にもつながっていく。

イベント当日のルートでは、参加者に一里塚や庚申塚などの史跡の他、小川原湖が

見渡せる場所などの美しい風景の場所や土地にまつわる歴史なども広範囲に紹介し、普段何気なく通り過ぎている「そばにあるもの」の中に目新しい地域資源としての価値があることを共感してもらおう。

また、特産品を活かした郷土食を昼食に提供することにより郷土食への興味を喚起し、それを茅葺き家屋「まなか」という古民家施設にていただくことで、「地域ならではの」の田舎の雰囲気も併せて味わってもらおう。

さらに、「モール温泉入浴チケット」や「東北町特産品いろいろ詰め合わせセット」を景品として活用することにより、普段「そこにあることが当たりまえ」という何気ない感覚で利用している・食べているものが観光商品として成り立つということを考える機会を与えることができる。

3-2 体験型ルートの企画

3-1 で発掘した地域資源を鉄道の活用が図られるよう以下のようにマッチングさせ、観光ルートを企画した。

a. 鉄道の利用

参加者には当日鉄道を利用してJR東北線（青い森鉄道）「乙供駅」に集合してもらい、観光の雰囲気作りを高めていく。

b. 温泉の活用

ワークショップにて「モール温泉」のチケットを参加者に配布することで、実際に温泉に入って温泉のよさを体験してもらい、「また行きたい」という自発的に活動する意識を高める。

c. 地域資源の公募

参加者には、事前に「青い森鉄道沿線 私の一押し ツアー・ルート」と「青い森鉄道沿線 私の絶景ポイント」のアンケート調査に答える形で地域資源を「オススメの見所」として紹介してもらおう。

d. 特産品の利用

地元特産品を利用した郷土料理を昼食に取り入れた。さらに「東北町特産品いろいろ詰め合わせセット」と「モール温泉入浴チケット」を景品として活用した。これにより、地元食への興味を喚起し、地域資源としての食や温泉資源について考える機会となる。

e. 史跡・絶景ポイント巡り

奥州街道・石碑・鉾山トロッコ跡などをバスで巡り、途中の絶景ポイントなども視察し、地域について沿線住民が学べる機会を設ける。

f. ミニ・ワークショップの実施

ミニ・ワークショップを行い、今回のバス・ツアーに参加してみた感想や改善点などを挙げてもらい、実際にツアー・ルートとして商品化するにあたっての問題点などを検討する。

4 取組の検証

上記 3 の体験観光ルートを事業関係者以外の者（部外者）を対象に、市町村広報・新聞記事・チラシなどを通して広域的に参加者を公募し、参加者自身が推薦するルートを実際に考えた上で応募してもらい、当日の参考ルートを体験してもらった。当日は、青森市・八戸市・十和田市・三沢市・おいらせ町・野辺地町・東北町・七戸町・五戸町から関係者を含め50名を超える参加があった。

4-1 観光ルート事業の実施結果

検証結果は以下の通りである。

a. 観光ルートめぐり

11月8日（日）午前10時、JR東北線乙供駅に集合し、バスで以下の地域資源を巡った（以下ルート見学時の写真）：

二ツ森貝塚→ふれあい村→ミス・ビードル号記念広場→道の駅みさわ→小川原湖水辺広場→蒼前平一里塚→大銀南木→道の駅しちのへ→七戸城跡など



茅葺き家屋「まなか」にて郷土料理の昼食をとり、ミニ・ワークショップを行った。また事前アンケートでの入選者には、表彰式にて「パッケージ・ギフト」(モール温泉入浴チケット綴り+東北町特産品いろいろ詰め合わせセット)が贈られた。尚、参加者にはもれなく「モール温泉入浴チケット」が配布され、帰宅時に温泉を楽しめるように工夫した。



東北町
みどりの大地とロマンの森公園
茅葺き家屋「まなか」



食事中



ミニ・ワークショップ風景



表彰式

b. 事前アンケート

事前アンケート調査において、

- ・「青い森鉄道線沿線 私の一押し ツアー・ルート」
- ・「青い森鉄道線沿線 私の絶景ポイント」

というテーマで、観光コースと地域観光資源の調査を行った。参加者から様々な見所として地域の紹介があり、新しい地域資源発掘の一助となった。結果は次の通り：

➤ 「青い森鉄道線沿線 私の一押し ツアー・ルート」

<観光コースとして挙げられた ツアー・ルート>

農業や料理などの体験もできるコース

- 七戸町 ローズ・カントリー→温泉→農業体験→遺跡ルート
- モール温泉に湯治(二泊三日)してのんびりし、その合間に郷土料理の講習、奥州街道松並木の散策などでのんびりと楽しむ

歴史を知るコース

- 蒼前平一里塚→七戸町銀南木→道の駅「しちのへ」→七戸城跡

季節が限定される(季節のものを活用した)コース

- 七戸町「天王神社のつつじ」(5月には花がすごく綺麗)→野々上「人形

の館」で人形作り体験→七戸「山勇」で郷土料理→古い町並み見学

- 七戸町「盛田牧場」の菜の花畑→天王神社のつつじ→諏訪牧場の馬
- 小湊駅から歩いていける白鳥飛来地→上北町駅から歩いていける小川原湖→野辺地駅から歩いていける百年食堂「松浦食堂」で茶粥→乙供駅から歩いていける東北温泉→三沢駅から歩いていける青森屋で浮湯とホッキ井
- 青森市（浅虫温泉地区） 大島のカタクリ、ホテル湖、旅館をセットした観光コース

既存の施設を見学・周遊するコース

- 七戸町「家族旅行村」→ローズ・カントリー→わんだむらんど 自然観察・散歩など、癒しを体験できる
- 車窓から見える小川原湖、ふれあい村のケビンハウス→三沢駅から十和田観光電鉄で十和田市現代美術館へ（花模様の馬、巨大な女性の彫刻等々、子供も楽しんでもらえる現代アート）

<コースに取り入れたい場所として挙げられた 観光ポイント>

食べる

- さんのへ川の驛（喫茶店）

故人の廃品を使って作ったあたたかい作品。建物がロボットの顔のようでユニーク。たるを使った二人用の図書室。BGMは「ふるさと」などの懐かしい歌が流れ、時間を忘れてずっといたくなる店。

- 大安食堂 八戸市青葉三丁目2-2 Fシャトレット1F

古い年代の給食の食器で食事を出してくれる。水は昔懐かしい水筒で。お弁当箱（銀）にご飯を入れて出してくれる。鶏料理、甘い卵焼き、カレーが美味しい。（店のトレードマークのかわいいニワトリの旗付き）

子供と楽しめる

- 平内 夜越山 子供の遊び場として

史跡・歴史を知る

- 蒼前平一里塚
- 七戸城跡
- ニツ森貝塚
- 七戸町 銀南木
- 三戸城 弘前と並び県内でも城を散策できる場所
- 七戸町（七戸城跡）整備状況が良い（JR東日本の協力による）
- 南部町（法光寺）法光寺五重塔 義経伝説気分が味わえるコース

土産品などショッピングする

- 道の駅「しちのへ」

景色を見る

- 七戸城址の高台から見える七戸町（七戸地区）全体の風景
- 浅虫海岸より青森までの間
- 上北町駅周辺 昔と比べ、駅前が静か過るが、小川原湖の白鳥や素敵な道の駅もある
- 三沢駅～上北駅間に見える美しい小川原湖の風景

散策する

- 浅虫森林公園 遊歩道のコースが色々あり、歩きやすく草花も野鳥にも出会える
- 小川原湖散策 沿線上の八甲田の景色が良い
- 小川原湖 湖畔の散策ができ、特産品のおみやげ物も買い物できる

➤ 「青い森鉄道線沿線 私の絶景ポイント」

<列車からの景色として挙げられた 車窓からの絶景ポイント>

野辺地～浅虫～青森 むつ湾の景色

- 浅虫から青森にかけての海岸
- 列車の窓から見える浅虫の海
- 浅虫温泉郷から見た海
- 浅虫温泉周辺 車窓から見える夕日
- 野辺地から青森に向かう景色
- 青森市土屋トンネル手前（下り列車）からのむつ湾 遠くに青森市街の明かり（眺め）が美しい（特に夕方から9時ごろまでの列車）
- 浅虫 大島・亀島
- 野内駅からのトンネル前後に見えるむつ湾

下田鉄橋からの風景

- 下田駅の鉄橋から見える景色

新幹線並行区間

- おいらせ町～八戸駅間における新幹線の並行区間

八甲田・釜臥山・階上岳など 山の風景

- 車窓から見える八甲田山脈
- 小柳駅付近からの八甲田山
- 八戸駅以南の車窓から見える階上岳
- 平内町の沿線から見える釜臥山

田園風景

- 三沢から小川原にかけての田園風景

小川原湖

- 上北町から小川原の小川原湖

駅周辺の建物

- 三沢駅から眺める青森屋の建物群

<車で行って楽しめる景色として挙げられた 降りて楽しむ絶景ポイント>

歴史・史跡

- 蒼前平一里塚
- 七戸町 銀南木
- 七戸城跡

土産品など買い物

- 道の駅「しちのへ」

山・海・湖・花などの自然

- 八甲田山
- 湖
- 海
- 四季の花

c. ミニ・ワークショップ

ミニ・ワークショップにおいて、実際に巡った体験観光ルートについて以下の項目別に調査を行い、参加者から様々な意見が寄せられた。

- ・ バス・ツアーのコース内容についての感想
- ・ ツアーで一番印象に残った場所
- ・ バス・ツアーの所要時間について
- ・ バス・ツアーで将来的に紹介してもらいたい場所など
- ・ 今回のようなバス・ツアーの参加費(昼食代含む)について
- ・ 昼食バイキングについて
- ・ 昼食バイキングで特に美味しかったものランキング
- ・ モール温泉宿泊パック(バス・ツアー/温泉)ツアーの価格設定について
- ・ 参加者の年齢・職業・住所(市町村)など

結果は次の通り：

➤ バス・ツアーのコース内容についての感想

コース内容	全 体		年 代 別									
			～20		30～40		50		60～		年齢不明	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
大変良かった	17	39%	3	75%	4	31%	5	50%	4	27%	1	50%
良かった	24	55%	1	25%	7	54%	4	40%	11	73%	1	50%
どちらとも言えない	3	7%	0	0%	2	15%	1	10%	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	44	100%	4		13		10		15		2	

意見など

もっとゆっくり見学したかった (バス移動時間が長く、見学時間が短かった)

- バスに乗っている時間が長すぎた
- バスに乗っている時間が長く、見学時間が短かった
- 見学に時間があと 10 分くらい欲しいと思った
- 一箇所ごとの時間が詰まっていた
- 時間に追われて少し慌ただしかった
- 盛りだくさんかな？

ポイント： 降りて見学する時間にゆとりを設けることが必要。短いと満足感が得られにくい。

ガイド付きで分かりやすかった

- 分かりやすくてとても良かった
- ガイドが有難かった。

ポイント： ガイドがあることで観光資産としての価値が高まる。

普段いけない場所に行けた

- 普段家族ではいけない場所に行けたのが良かった。
- 全く自分では行かないところに行けたのが良かったです
- 企画に参加しなければなかなか回れないコースだったので、楽しめました
- 南部地方はあまり知識がなかったので、とても印象深かった
- 色々なところを見学できてよかったです

ポイント： 自分たちでは行きにくいところへ行けることに価値。

身近に良いところがあることを知った

- 身近なところに初めてのところがあった
- 「こんなところがあったのか！」と驚きでした（各所）。
- 近くに住んでいるのにあまり見たことがなかったので、色々見られてよかったです
- 地元にも知らないところがいっぱいでした
- 近くに住んでいてもなかなか見学することがなかったので楽しい一日でした
- 私にとって初めての出来事。町の良いところを一つも知らなかったことです

ポイント： 地元住民であっても地元を知らないということを実感することが観光化への第一歩。観光ガイドを育成していく上で、「知ること」を通して地域への知識欲をさらに高め、住民みんなが自然なかたちでガイドになっていくように地域の良さをアピールすることが大事。観光地となっていくことへの意識づくり。

道の駅を入れること ショッピングも観光の一部

- 最後に「道の駅」を入れると良かったのでは？

ショッピングも観光の大事な要素。特産品に出会える「道の駅」は地域の文化（食など）を紹介する一助に。

その他

- 楽しかったです
- 天気も良くてとても良かった
- 良い体験をしました

➤ ツアーで一番印象に残った場所

東北町

- 茅葺き家屋「まなか」 8
(料理も和風で美味しかったです)
- 蒼前平 一里塚 6
- 二ツ森貝塚 2
- 小川原湖 1

街道沿い

- 奥州街道と松並木 4

七戸町

- 七戸町 大銀南木 9
- 七戸城跡 2

三沢市

- ミス・ビードル号記念広場（浜辺） 2
臨場感がありました。ここから飛び立ったんだー。
- 仏沼 1
- 三沢方面 道の駅みさわ 1

印象に残った場所として、1番に七戸町の銀南木、2番に食事をした「まなか」が挙げられた。観光における食事の重要度が表れている。

➤ バス・ツアーの所要時間について

バス・ツアー 所要時間	全 体		年 代 別									
			～20		30～40		50		60～		年齢不明	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
短かった	6	14%	1	25%	4	31%	1	10%	0	0%	0	0%
ちょうど良かった	27	61%	2	50%	5	38%	6	60%	12	80%	2	100%
長かった	9	20%	0	0%	3	23%	3	30%	3	20%	0	0%
未回答	2	5%	1	25%	1	8%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	44	100%	4		13		10		15		2	

意見など

見学場所が多く、滞在時間が短かった

- 範囲が広く、移動が多いのが残念
- 1ヶ所に留まる時間が短いので、2ヶ所くらい減らして少し滞在時間を延ばせばゆっくりできた
- 盛りだくさんで見学時間が少し忙しかった
- 見学場所が少し多かった
- 一箇所での散策時間をもっとゆっくりとって欲しい
- 一箇所の散策時間が短かったような感じがしました
- 2時間が良いと思う
- 長かったので、次が温泉に入って一泊だともっと良いです
- 少し疲れました
- 少し長いと感じました

沢山周遊するよりも、時間をかけて数箇所巡ったほうが満足度が大きい。

季節的な日照時間の問題点

- 日暮れが早いので3時に終了して欲しい

季節的な時間制約が課題。冬場は室内で楽しめる要素を取り入れるか？

バス席にゆとり必要

- バスが合席 補助席で乗っているだけでぐったり疲れた

バス乗車時もゆったりとできる環境づくりが大切。

普段見られない場所

- 普段見られない景色が見られてよかったです
- 三沢のベースの中に入れたら又良かったかな

個人では見られない場所に観光価値あり。観光場所の枠をもっと広げるには、地域団体などとの連携必要。

子供連れの問題点

- バスの中で子供たちがやたらうるさくて説明が聞こえにくく、親が注意するべきだと思いました

年齢層が課題。子供連れの若い世代、年配など、年代ターゲットをしぼってルートづくりをすることも必要。

団体ツアーでの利点 コミュニケーション

- 皆さんとコミュニケーションがとれた

人との出会いも観光の大きな要素。コミュニケーションのよくとれる観光は、楽しみも大きい。

➤ バス・ツアーで将来的に紹介してもらいたい場所など

子供連れにも配慮した場所選択

- 子供の遊べるスポットを1ヶ所取り入れてほしい

七戸町

- 地元 七戸町
- つつじの有名なところ（七戸町天王神社だと思われる）2
- 七戸町 ローズ・カントリー

東北町

- 地元 乙供
- 坪の石文など

六ヶ所村

- 六ヶ所

野辺地町

- 野辺地町 常夜燈

十和田・七戸

- 八甲田方面

狭い範囲でゆっくりできるところ

- 一箇所でも範囲を広げて良いところ

未知の場所

- 行ったことのない所

知っているが、あらためて見て新鮮な場所

- 日ごろ、何気なくとも目にしているものが今日は新鮮だったので、そんな所。

➤ 今回のようなバス・ツアーの参加費(昼食代含む)について

バス・ツアー 妥当な参加費用	全 体		年 代 別									
			～20		30～40		50		60～		年齢不明	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
2,000 円	30	68%	3	75%	9	69%	8	80%	9	60%	1	50%
2,500 円	5	11%	0	0%	1	8%	1	10%	3	20%	0	0%
3,000 円	8	18%	0	0%	3	23%	1	10%	3	20%	1	50%
未回答	1	2%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	44	100%	4		13		10		15		2	

意見など

観光におけるランチの重要度

- ランチが美味しかった
- 食事は満足
- 昼食は地元の食材が美味しかった

ゆったり時間を設けることも観光価値

- 有料なら、もう少しいる時間をとっていただきたいかった (各20分程度)
- 昼食後 自由時間を30分くらい付けて欲しい

ガイド説明の価値

- ガイドの説明が良い

不況で価格も大きなプラン基準

- 2,000～2,500 円が良いと思います
- 安いほうが良い
- 生活が苦しいので、安ければ参加したいです

➤ 昼食バイキングについて

昼食バイキング	全 体		年 代 別									
			～20		30～40		50		60～		年齢不明	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
大変良かった	19	43%	1	25%	7	54%	5	50%	5	33%	1	50%
良かった	24	55%	2	50%	6	46%	5	50%	10	67%	1	50%
どちらとも言えない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	1	2%	1	25%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	44	100%	4		13		10		15		2	

意見など

昼食の品数とボリューム

- お腹いっぱいになり、とても美味しく沢山の種類もあり、また来たい！！食べたいです。
- お腹いっぱいでした。ご馳走様でした。
- 一品の量を少し多くして欲しい
- 大変美味しくてよかったです
- とても美味しくご馳走様でした まなかの皆さん有難うございました
- デザート一品あれば良いな・・・

料理をいただくこと自体が料理講習→地産地消へもつながる

- 長いもあんかけ煮が自分のレシピに取り入れられそう

旬の食材を工夫して手作り

- 手作り感が伝わった。旬のものをよく調理していました。
- 食材の工夫が良い
- 長いもジュースがとても美味しかった
- 漬物が美味しかった

地元の食材で安全安心

- 地元の材料を使っているので安心
- 地元の食材を活かしていて大変参考になりました
- 地域の農産物が美味しかった

参加者の各年齢層（子供～お年寄り）に向けた献立と会場作り

- 子供にうけるものも欲しい

- すみません。子供連れだったので、大人は美味しかったです、子供向けの料理を一品くらいあったら嬉しかったです
- 長いもジュースの砂糖もう少し控えめでは？（60代以上）
- 食事会場が暗かった（60代以上）

珍しい食材

- サルナシをそのまま食べられて嬉しかった。
- コクワ初めて食べました美味しかったです
- 変わった果物が美味しかった

団体行動で問題化される待ち時間

- 人数が多いと待ち時間があり、限られた時間内で食事するのが慌ただしかった

➤ 昼食バイキングで特に美味しかったもののランキング

- 長いもすいとん 32%
- 長いもジュース 19%
- 長いものそばろあんかけ 17%
- さばの味噌煮 11%
- かぼちゃケーキ 9%
- とろろ芋 4%
- つけもの 2%
- ご飯 2%
- 全部 4%

➤ モール温泉宿泊パック(バス・ツアー/温泉)ツアーの価格設定について

温泉宿泊パック 妥当な金額は？	全体		年代別									
			～20		30～40		50		60～		年齢不明	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
10,000 以下	37	84%	3	75%	12	92%	8	80%	12	80%	2	100%
12,000 以下	4	9%	0	0%	1	8%	1	10%	2	13%	0	0%
15,000 以下	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	3	7%	1	25%	0	0%	1	10%	1	7%	0	0%
合計	44	100%	4		13		10		15		2	

価格はサービス内容によって納得か？

- 5,000 円
- 一泊二食バス・ツアーで8,000 円くらいだと嬉しいです
- 9,500 円
- 10,000 円だと良いのでは？
- 二食ついて10,000 円以下なら参加したいです
- 内容により。15,000 円でも良いです
- 夜はビールなど付けて欲しい
- 色々なコースが楽しめそう

➤ 参加者の年齢・職業・住所(市町村)など

■ 年齢

～20 代	9%	30～40 代	30%
50 代	23%	60 代～	34%
未回答	4%		

■ 職業

会社員	20%	自営業	7%
公務員	11%	その他	55%
未回答	7%		

■ 市町村

七戸町	42%	青森市	16%
おいらせ町	11%	三沢市	9%
東北町	8%	十和田市	8%
八戸市	2%	野辺地町	2%
五戸町	2%		

4-2 観光体験ルート事業の実施効果

上記①の実施結果から以下のような実施効果が得られた：

a. マイ・レール意識の醸成

- 鉄道沿線のツアー・ルートを参加者が事前に「鉄道を念頭において」考えて応募し、当日のバス・ツアーで「駅を起点として」沿線の観光資源を実際に巡ってみることにより、鉄道に対する意識を高められた。また、案内チラシにもこの事業の目的を提示し、意識的に「青い森鉄道」のあり方を探る機会となり、結果として地域住民の将来の「青い森鉄道」に対するマイ・レール意識が醸成された。

b. 観光地化への意識を高める

- 普段何気なく見ている沿線の場所を観光資源として捉えて作成した試作観光ルートを体験したことにより、青い森鉄道線沿線に価値のある観光資源が存在すること知り、観光地化していく地域への意識を高められた。

c. 新たな観光資源の発掘

- 観光資源は新たに作るものではなく、「すでにここにあるものをどう観光資源として活用していくか」にあることが理解された。史跡などもただ見るだけではなく、「ガイド説明」があることにより付加価値が生まれ、観光客の満足度も高まることが理解された。
- 事前アンケート調査において、おすすめの場所を参加者自ら事前に発掘してもらい、他人に紹介したい観光ルートを考えてもらった。それらの場所などを結びつけることで観光ルート化でき、普段自分が好んで行く場所に観光資源としての価値があることを認識してもらう機会となった。

d. 地域活性化への原動力

- 本事業で地域住民が「観光」という切り口から地域を知り、それを周囲に波及効果的に伝えていき、『自分たちの住んでいる地域にはこんなに良いものがあるよ』と自覚することで、地域が活性化される原動力となった。
- 参加者からはもっと地域を知りたいという声も聞かれ、地域資源に対する意識が高められたことがうかがえる。こうした意欲は、地域活性化へとつながっていくと思われる。

e. 観光資源としての郷土食や地元農産物・特産物

- 特産物を工夫して使った郷土料理を昼食に活用することにより、地元食の良さや田舎ならではの雰囲気味わってもらい、地元の良さを再認識してもらった。また「食」も観光資源であることを認識する機会となった。
- また、創作郷土料理を食することにより、家庭でその味を取り入れてみようという意識も育てられ、将来的な地産地消の活性化にもつながると期待される。

f. 温泉資源の活用

- この地域特有の全国でも珍しい「モール温泉」を活用し、温泉入浴チケットを参加賞・入選賞品などに取り入れた。本地域には温泉が多数点在することから、地域住民は日常的に温泉を利用する者が多く、温泉入浴チケットも何気なく普段から使用されている。その入浴チケットを本企画の目玉に取り上げることにより、観光という観点から普段利用している温泉施設

を見ることができるように工夫した。

- 観光では、温泉といえば「宿泊」と連想されるが、この地域では家庭の浴室と同程度に認識・利用されているため、地域住民に、温泉がたくさん存在することの稀有さと有難さを実感していただく機会となった。

4-3 実施結果を総括した反省点・改善点など

a. 反省点

- 沿線各地の観光資源を多く知ってほしいという観点から、ポイントごとの滞在時間が短く、満足が十分得られない感があった。
- 若年～年配まで参加者の年齢に幅があり、年齢により食事内容に好みが変わったため、改善が必要。
- 子供向けの料理が無い、子供が楽しめる場所がない、子供がうるさいなど、子供に関する苦情が寄せられた。年齢層を限定して参加募集したほうがよいのではないか？
- 地域の事業団体・施設などとの連携強化が必要。

b. 改善点

- 時間的（見学/食事時間）・物理的（バス席など）に余裕あるプログラムづくりが求められる
- 参加者の年齢を制限してプログラムを組むことや、あらゆる年齢向けのプログラムも考慮する
- 経済状況（不況）から、参加費などの費用への考慮も必要
- 地域団体・施設などとの連携を強化し、観光客の受け入れに対する意識を高め、青い森鉄道線沿線の活性化につなげるよう呼びかける。

5 取組を踏まえた展開

5-1 体験観光ルートの開発状況

今回までに行われた地域資源発掘結果とバス・ツアーなどで寄せられた意見を元に、以下の要素を組み合わせ、各年齢層に向けた観光ルートを試作する：

- (ア)温泉（日帰り・宿泊・温泉効能）
- (イ)郷土食（伝統料理・創作料理）
- (ウ)史跡・遺跡・遺物・歴史・偉人
- (エ)地元の特産物などの土産物（道の駅など）
- (オ)山・海・湖・花などの自然や景色
- (カ)観光ガイドを含む「人」
- (キ)農業体験
- (ク)料理体験

(ケ) 手作り XX 体験（リースや人形作りなど）

(コ) 地域のイベントへの参加

実際のコースとして次のようなものが挙げられる：

① 「子育て世代」 小さな子供と一緒に楽しみコース

親子と一緒に遊べて、子供向けの食事を楽しめるコース。夜越山、七戸町家族旅行村、十和田市高森山公園など、小さな子供向けのレクリエーション施設・温泉・食などを組み合わせる。

② 「ミドル・エイジ」 明るく元気 & ホット・スパ コース

子育てが終わった（子供が高校生くらいになった）世代、子供がない家庭、独身者などに向けたコース。小川原湖や天王神社のつつじなどを散策しながら楽しみ、ローズ・カントリーでの体験や農業体験も取り入れて、歩くなど身体を動かして満足度を高め、ボリューム感のある食事と温泉を組み合わせる。

③ 「ゆったり世代」 スロー・ライフ健康食 & ホット・スパ コース

一ヶ所滞在型で、あまり移動時間を設けず、滞在場所付近で見る・聞く・話す・学ぶなど、人とかかわることで充実するコース。伝統的な郷土料理を多く提供し、品数は多いけれどカロリー控えめな食事を取り入れ、滞在しているうちに健康になってもらうよう温泉と組み合わせる。

④ 「女性グループ向け」 美容と健康 ダイエット コース

温泉に重点を置き、温泉と食事で綺麗になるコース。様々な効果のある温泉をはしごしながら、精進料理的な郷土料理を提供し、温泉効果で綺麗になり、さらに食事で作せるように設定。温泉の効果と「医食同源」の食効果を学ぶ機会も設ける。

また、これらのコースには青い森鉄道を利用した場合に特典が得られるよう、鉄道・駅を起点とした仕組み作りを行う。

5-2 今後の展開方針

今後の展開方針として、上記 4-3 の反省点・改善点を踏まえながら、次の項目に関する考察をより深めた上で、新たな体験観光ルートを開発していく。

- a. 各年齢層に向けたルート仕分け
- b. 沿線の団体・事業者との連携強化
- c. 地域資源の連携
- d. 経済状況（不況）の鉄道利用への影響
- e. 地域活性化へと繋がる原動力は何か
- f. 新たな資源発掘と既存施設の観光資源化への考察
- g. 将来的な青い森鉄道線利用の可能性（通勤・通学・観光）

- h. 人を動かすのは人であることと観光との繋がり
- i. 鉄道の利点・魅力
- j. 観光ガイドの育成への取り組み

6 終わりに

昨年度から2度にわたり実践的実験的に体験型観光プランづくりを行ってきたが、上記に上げた課題をクリアするのは実践を重ねていくほかに手段はない。従って我々NPO法人アルキメデスは、その課題をクリアしながら東北町のみならず、上北地域の地域づくりを「地域のほこり」と「もてなしのこころ」をもって進めていきたい。観光プランづくりの中にも地域教育があり「地域のほこり」の形成につながり、そのことが来訪する観光客へ「ほこり」をもった「もてなし」へとつながると考える。我々アルキメデスはわかりやすい科学的思考を通して地域づくりをより強い意志で進めていきたい。

7 その他 案内チラシ・広報など

(1) <案内チラシ>

(おもて)

「モール温泉」私だけの一日

～ひとを知り みちを知る～



by 青い森鉄道(東北町編)

2009年11月8日(日) 参加者大募集! 無料

お申し込みは簡単!
あなたが皆に紹介したい
「青い森鉄道沿線
私の一押しツアー・ルート」
& 「青い森鉄道沿線
私の絶景ポイント」を
ハガキ・FAX・メール等で

申し込みが済んだら、
11月8日(日)午前10時
までに
青い森鉄道
「乙供駅」前
(現 JR東日本 乙供駅)
へ行こう!

乙供駅からバスに乗って
奥州街道・石碑・
鉱山トロコ跡などを巡り、
絶景ポイントを
みんなで探めよう!




お屋は
茅葺き家屋「まなか」で
地元食の

乙供駅で解散。
あとは貰った
「モール温泉」チケットで
温泉に入って
のんびりして帰ろう!
㊦㊦㊦㊦

ツアー・ルート案 入選者の表彰式
最終選考に残った5つのルート案には、ナント!
パッケージ・ギフト
『東北町モール温泉 入浴チケット綴り
+ 東北町特産品いろいろ詰め合わせセット』

ミニ・ワークショップで
簡単なアンケートに答えて
全員
「モール温泉」のチケット
を貰おう!



〔目的〕平成22年東北新幹線新青森駅・十和田七戸駅開業に伴い、在来線である八戸・青森間JR東日本線は「青い森鉄道線」として経営分離されることとなります。そのため、将来の青い森鉄道を元気に運行していくために、沿線地域の皆さんが積極的に同線の利活用を図っていくことが重要となってきます。そこで沿線の地域資源を体感し、沿線在住の方々に「地域にふれ、人にふれ、青い森鉄道にふれ・なじみ、愛着をもって」いただき、地域の素晴らしさを再認識することで「地域力」を高めていこうという取り組みから、本事業を企画致しました。

第2回目となる今回は、JR東日本乙供駅をスタート地点とし、沿線に点在する国内外でも珍しいとされるモール温泉(亜炭層を通過することで黒い湯として湧出する温泉のこと)と沿線の観光資源である史跡や絶景ポイントなどを結びつけて「ミニ・パッケージ・湯治ツアー」として実際に巡っていただきます。本企画では、参加者自らが事前にルートを考案した上で当日のツアーに臨むことで、各人がより一層意識を高めた形で観光という切り口から地域を考える機会となり、地域社会と鉄道のあり方を探り愛着のある鉄道づくりへと繋げていくことを目指します。

【参加費】**無料**
お屋は茅葺き家屋「まなか」でバイキングをいただきます。

【募集人数】50名

【応募資格】三戸町～青森市の青い森鉄道沿線(現JR東日本線)とその周辺市町村に在住の方

【募集締切】募集締め切りは、11月04日(水)となります。
(期日前であっても定員になり次第締め切らせていただきますので、ご容赦ください。)

【服装など】当日は乙供駅前集合後、バスで移動しながら上北地域を探訪いたしますので、歩きやすい服装でおいでください。雨天の場合は雨具のご用意も忘れずに。

お申し込み詳細は裏面をご覧ください。

主催：特定非営利活動法人 アルキメデス
事務局：〒033-0011 青森県三沢市幸町三丁目20-12
電話・FAX (0176) 53-9500
E-mail: archimedes@hb.tp1.jp
URL: http://www.r66.7-dj.com/~hiyori1/
(担当やまだ 携帯 090-5843-0478)



本事業は、青森県による「青い森鉄道利活用アクション事業」の一環として開催されます。

(うら)

「モール温泉」私だけの日

～ひとを知り みちを知る～



と き： 2009年11月08日(日) 午前10時～午後3時30分
(受付は午前9～10時)

と ころ： 東北町東北地区 JR東日本線 乙供駅前 集合

＜参加申し込み方法＞

下記の内容をご記入のうえ、事務局まで封書・お電話・FAX・お葉書などでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

募集締め切り： 2009年11月04日(水)

(定員になり次第締め切らせていただきますので、御容赦ください。)

ルートを考えるときのキーワードはおたのしみ
「おもしろい・たのしい・のんびり・しりたい・みてみたい」

Q. あなたが皆に教えた

「青い森鉄道沿線 私の一押し ツアー・ルート」を紹介してください。

そのルートはどこを巡りますか？そしてその見所は何ですか？

(例： 縄文遺跡二ツ森貝塚 きちんと整備されていて縄文の生活を体感できる)

1 _____

2 _____

3 _____

4 _____

5 _____

Q. あなたが皆におすすめする

「青い森鉄道沿線 私の絶景ポイント」を紹介してください。

(例： XXX付近で列車の車窓から見えるXXXの風景 自動車からは見られないXXXが美しい)

1 _____

2 _____

3 _____

4 _____

5 _____

〒() (ふりがな)
ご住所： 青森県 市・町・村
(ふりがな)

お名前： _____

人数：	おとな	名	}	合計	名
	こども	名			

でんわ：() _____

FAX：() _____

携帯： _____

←ご家族やグループでご参加の場合は、代表者のお名前のみでも結構です。(ルート案が複数ある場合は、ご人数分の案をまとめて受け付けます。1グループで1ルート案でも結構です。)

(2) <新聞掲載、広報関連>

「モール温泉」私だけの一日の告知は、東北新聞社2009年10月20日(火)、東奥日報社 2009年11月4日(水)デーリーに掲載されると共に、各市町村広報誌に掲載され、当日の活動としてデーリー東北新聞社 2009年11月11日(水)に記事掲載されました。

平成21年09月吉日

各 位 :

特定非営利活動法人
アルキメデス 事務局

貴市町村広報誌への掲載のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

NPO 法人アルキメデスでは、より地域に根ざした地域づくりに励んでいるところです。この度、青森県「平成21年度青い森鉄道利活用アクション事業」の一環として「モール温泉」私だけの1日 by 青い森鉄道<東北町編> ～ひとを知り みちを知る ～ と題し、体験ツアーを実施致します。

是非、より多くの上十三地域の方々からのご参加を賜りたく、貴市町村広報誌に、上記体験ツアー への参加者募集の記事掲載のお願いするところで御座います。

広報誌への掲載記事内容につきましては、下記に記載いたします。各市町村の紙面スペースのご都合もあるかと存じますが、掲載のほどお願い致します。

尚、記事が掲載される場合は、お手数ですが掲載された広報誌をご提供いただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

「モール温泉」私だけの1日 by 青い森鉄道<東北町編>
～まちを知り みちを知る～

日 時： 平成21年11月08日(日) 10:00

集合場所 東北町 みどりの大地とロマンの森公園 かやぶき家屋 まなか

内 容： あなたの青い森鉄道絶景ポイント企画案募集

上北地域観光バス・ツアー

ミニ・ワークショップ

郷土食屋敷

募集人数： ルート 50名

参加費： 無料

応募締切： 平成21年11月04日(水)午後05時

お問い合わせ先：

NPO 法人アルキメデス 事務局 (担当 やまだ)

電話・FAX 0176-53-9500、携帯：090-5843-0478

メール： archimedes1@orion.ocn.ne.jp

以上

[NPO 法人アルキメデス 事務局]

〒033-0011 青森県三沢市幸町3丁目20-12

Tel/fax: 0176-53-9500 担当：やまだ

E-mail: archimedes1@orion.ocn.ne.jp

URL: <http://www.r66.7-dj.com/~hiyoril/>

青森県企画政策部 並行在来線対策室

営業担当 橋本 優子


市町村広報 掲載願ひ

(3) <当日配布資料など>

当日配布しおり(裏・表)


～ じかんわり ～


11月8日 午前の部


9:00～10:00 受付
 「乙供駅」出発 
 ニツ森貝塚 
 ふれあい村
 ミスビードル号記念広場
 道の駅「みさわ」 
 小川原湖水辺公園

12:30 昼食「まなか」ハイキング・ランチ

午後の部


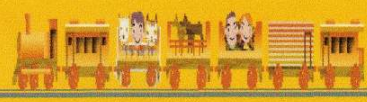
13:30 茅葺き「まなか」出発 
 蒼前平一里塚
 七戸銀南木 
 道の駅「しちのへ」
 七戸城跡

15:30 表彰式 茅葺き「まなか」 
 16:00 終了・解散

 : トイレ  : 集合写真撮影

「モール温泉」私だけの日

～ひとを知り みちを知る～

2009年11月08日(日)

主会場：東北町みどりの大地とロマンの森公園
茅葺き家屋「まなか」

特定非営利活動法人 アルキメテス

七戸城跡



東門は、七戸城に侵入してくる敵を防ぐ役割を果たしたと考えられている歴史的に重要な建造物。使用して

いる木は、国道4号拡幅工事の際に伐採した奥州松並木のマツを国土交通省から譲り受けて再利用した。

風車群



ヤマセ(東風)を受けて発電する大型風車。自然いっばいの丘陵に林立する風車は圧巻。

物見崎海岸

六ヶ所村の最北端周辺はタタミ岩と呼ばれる奇岩が点在するリアス式海岸です。





ニツ森貝塚(平成10年史跡指定)

わが国最大級の貝塚で、三内丸山遺跡とほぼ同じ縄文時代前期から中期(約5500～4000年前)にかけての大集落跡。

主要部(3.5ha)は平成10年、国史跡に指定される。人骨や幼犬の骨が出土し、現代と同様、縄文時代においても、ヒトとイヌの関係が深いものであったことを物語っています。

上北ふれあい村からの景色



小川原湖湖水浴場右手高台にある、カナディアンロッジとオートキャンプ場、コインシャワー、炊事場があります。手ぶらで来ても大丈夫、貸しテント

があります。

蒼前平一里塚

江戸時代初めに造られた、日本橋から数えて176番目の一里塚。

全国の一里塚の中では最もよく保存されているといわれる。

昭和37年、天間館の一里塚とともに県史跡に指定される。



奥州街道松並木



南部落が街道筋に木を植えることを奨励したのは明暦3年(1657)からである。明治9年、天皇御巡幸に従ってきた岩倉具視らが「これだけの並木は日光参道にしかない」とほめたという。今の松並木は、明治8年、県が街道に植樹をすすめた時以降のものではないか。

ミスビードル号記念広場

1931年(昭和6年)10月、米国人飛行家クライド・バングボーンとヒュー・ハーンドンの二人は、単発エンジンで単集機であるミス・ビードル号によって現在の三沢市にある淋代海岸を離陸、太平洋上を無着陸で横断飛行し、米国ワシントン州ウェナッチ地区に着陸しました。彼らの飛行は世界初の成功を収めることとなりました。



小川原湖水辺公園



主にシジミ取りができる遊採場です。また、近くに野鳥観察場があるので、ここに車を停めて観察会を行うみたい。

中野庚申碑(奥州街道分岐点)



寛政9年(1797)に建てられる。道分石でもあり、「右ハ野辺地本道左ハ同近道」とある。近道は「坪道」「上道」などとも呼ばれ、

野辺地までは1里位近かったという。

銀南木

法身国師の手植えと伝えられるこの大きな「いちよう」の木は、樹齢700余年、幹廻りが2メートルを超える。



当日体験観光ルート 場所説明